

出前講義

2025
2026

HOKKAI
SCHOOL
OF
COMMERCE

アジアの時代に
アジアを学ぶ

修学旅行連動型
出前講義

詳しくはP1-2を
ご覧ください。

- ▶ 観光を学ぼう
- ▶ 北海道から考えよう
- ▶ 商学を学ぼう
- ▶ 社会を考えよう
- ▶ 世界を楽しもう
- ▶ 過去実績データ

学校法人 北海学園

北海商科大学

商学部〔商学科・観光産業学科〕

修学旅行連動型 出前講義

修学旅行連動型出前講義とは

修学旅行の前に、大学教員が高等学校を訪れて修学旅行先に関する講義やワークショップを行います。

生徒さんたちが修学旅行先についての知識を身に付け、新しい視点を見つけるために修学旅行連動型出前講義をご活用ください。

1 韓国

South Korea



日本から最も近い隣国である韓国。人々や文化の往来がますます活発になってきています。この講義では、韓国の位置、面積、人口、地理など韓国に関する基本的な情報を学びます。その後で日本と韓国の高校生活の違い、韓国の若い人々が日本のことについてどのように考えているのか、日本人が韓国の若い世代に接する際に気を付けなければならないかを見渡します。さらに、皆さんと同世代の韓国の高校生が南北分断という厳しい状況の前で、どのように現実に向き合っているのかに言及します。

2 広島

Hiroshima



2025年は原爆が投下されて80年になります。高校生の皆さんは、現地に行って語り部さんたちから原爆の被害の甚大さや人びとが経験した悲しみを学ぶことでしょう。こうした現地での学びをより深く意義深いものとするためには事前知識が必要です。そこで、この講義ではまず原子爆弾の被害についての基礎知識をお話します。更に、原爆は人類全体の問題であるとの視点から、原爆投下の背景と投下の影響を当時の国際関係とからめて説明します。南方特別留学生などの外国人被爆者の話も取り入れます。この事前講義と現地での学びを通して、高校生の皆さんには「平和とは何か」を考えてほしいと思います。

3 沖縄

Okinawa



沖縄のイメージはなんでしょう？エメラルドグリーンやサンゴ礁の海、独特な音楽や食、ルーズだけど人に優しい島の人の性格ですか。わたしの息子は、蒸し暑いところなので行きたくない！と拒絶します。

北海道から見ると、まったく違うイメージの沖縄ですが、実際に沖縄に住んでいた経験を含め、独特なイメージを生み出した地域の成り立ちやライフスタイルなどを知ってもらい、「沖縄人が知ってほしい沖縄とはなにか」について考えて欲しいと思います。

4 台湾

Taiwan



現在、日本と台湾の関係はとても良好です。しかし、過去に日本は台湾を植民地支配していました。この講義では、高校生の皆さんがこのような日本と台湾の複雑な歴史的関係を理解する手助けをしていきます。

まず、日本－台湾関係を軸に台湾の歴史について講義し、その後は現代台湾文化や台湾社会をお話します。また、台湾研修に出発する前に理解しておくべき台湾－中国関係や米中対立下の台湾の状況や半導体関連についても触れていく予定です。

SCHOOL TRIP



5 ディズニーリゾート Disney Resort

1983年、アメリカのディズニーテーマパークとしてオープンした東京ディズニーランドは、訪れる人を夢の世界に誘いその人気は衰えを知らない。本授業では、東京ディズニーランドの経営・運営を担うオリエンタルランドの徹底した夢の空間づくり、ゲストをもてなすキャストのサービス等に着眼し、ハピネスを提供するホスピタリティ産業の秘訣について学びます。

6 京都 Kyoto

源氏物語や百人一首の舞台としての京都を詳しく見ていきます。単なる観光地案内ではなく、物語内容や和歌解釈を中心に〈ことばとして表現された土地〉と実際の土地とのずれや歌枕としてのイメージ生成などを扱う予定です。宇治橋と浮舟、野宮神社と六条御息所など物語との関連の以外に、和泉式部と貴船神社など実在の人物との関連も交え、さらには夕顔の墓を例に取り虚構の物語を読む行為とはいかなる営為なのか、現代の「聖地巡礼」との共通点はどこかなど考えてみるきっかけにしませんか。

7 京都 Kyoto

本講義では、「コンテンツツーリズム」と「世界遺産」を切り口に、修学旅行地京都を学びます。コンテンツツーリズムとは、映画、文学、歴史、音楽、祭りなど、特定の文化コンテンツを目的に観光地を訪れる旅行形態を指します。京都を題材に、映画のロケ地巡りや歴史的人物ゆかりの地を巡る旅が、地域活性化や文化の継承に果たす役割を解説します。また、清水寺や金閣寺といった世界遺産を例に、観光資源としての価値や保護活動の重要性について議論します。高校生の皆さんには、「旅行先で文化を学ぶ意義」や「地域の魅力を発見する視点」を考えるきっかけを提供します。修学旅行が単なる観光で終わらず、深い学びの場となるような視座を育む内容です。

8 大阪 Osaka

大阪は、ドンキーコング・カントリーが2024年12月に新設され大人気なUSJや、グリコなどの巨大看板で有名な道頓堀、吉本興業などのお笑い、ヒョウ柄などの派手な服を着たおばさんなど、エンターテインメント性の高い街としてよく知られていると思います。他方、その主張の強さから、あまり好きではないという人も少なくないと思います。なぜ、こんな街や人が生まれたのか、街の成り立ちや人の育つ環境、隣接する京都や神戸、一方的？にライバル視する東京等との他都市との関係などを知ってもらい、「本当の大阪の魅力とはなにか」について考えて欲しいと思います。

9 シンガポール Singapore

シンガポールは華人、マレー系、インド系、その他からなる多民族国家であり、東南アジアの経済・金融の中心地です。何も知らずに訪れるのもワクワクするものですが、事前知識があった方がシンガポール修学旅行をより楽しくより実り多いものにできるでしょう。

そこで、この講義では、まずシンガポール基礎知識を説明します。その後、シンガポールの観光地を通して、シンガポールの歴史、ヒトの移動と国際関係、異なった民族との共生の仕方、国としての経済発展戦略、そして日本との関係を学びましょう。

観光を学ぼう

■観光のブランド化 ■食と観光

「食」が観光ブランド化を強くするのか？

准教授 深澤 史樹(観光政策論)



はじめに皆さんは、有名な観光地を挙げて下さいと問われると何と答えるでしょうか。北海道、京都、沖縄などと答える人も多いのではないのでしょうか。イメージが浮かぶそれらの地域は、観光ブランド化が進んでいる地域といえるでしょう。二つ目として皆さんは、観光地へ何を求めて訪れますか。人は癒し、自然や景色など、非日常性を求めています。それ以外に、食やおいしさなどが重要な要素としてその地域を選んでいるのではないのでしょうか。本講義では、観光ブランド化が進んだ地域が共通して有する特徴として、地域経済と深く結びついている「食」を取り上げます。さらに、観光地の磨き上げにも食は貢献することを皆さんとともに議論しませんか。

■観光まちづくり ■地理総合

愛される“マチ”に必要なことは？

教授 池ノ上 真一(観光まちづくり・文化遺産マネジメント)



マチは多様な人々が一緒に暮らす大きな器です。このマチの空間をよく観察すると、自然環境・生態系を背景にして地域が生まれ、現在の姿に形成されてきた経緯、多様な人々のライフスタイルや想い、さらに外部の人や地域との繋がりが見えてきます。また、それらの矛盾から、地域課題を抽出することも出来、観光のまちづくりにおける可能性にも気付きます。

これからは、人口減少時代、人生100年時代と言われ、大きな変革期に突入していきます。そんな中で生きていく自分の将来を考えるためにも、みんなが暮らすマチを知ることから始めてみませんか。

■観光立国 ■地域活性化

観光に期待される多面的効果って何？

教授 佐藤 博樹(観光事業論)



観光は、地域社会や経済、人々の生活に多面的な効果をもたらすことが知られています。そうした観光の営みは、さまざまに展開される観光事業によって維持され、発展しています。講義では、観光のもたらす多面的な効果について紹介するとともに、観光の意義と効果を高め、観光という社会現象をさらに盛んにする諸活動である観光事業について考察します。あわせて、観光立国を目指す日本の観光の現状についても、最新の統計を用いて確認します。

■キャリア教育 ■旅行業 ■アジア

観光から見えて来るものは何だろうか？

教授 山田 勲之(観光文化論)



一般的に観光の現場で出会う文化事象を観光文化と呼びます。では、文化が観光の対象となるには、どのようなプロセスがあるのでしょうか？そして文化が観光の対象となることで、どのような現象が起こっているのでしょうか？このような問題意識のもと、「真正性」「まなざし」といった観光文化論における論点を通じて考察します。また、文化に関わる観光現象を考察することは、実は現地の日常世界の理解につながります。つまり、観光学習を通じて社会の本質の理解を図ることができます。本講義では、国内外の事例を紹介しながら、観光文化について考えていきます。

■観光活動 ■観光の歴史

「旅」と「観光」って何が違うの？

講師 郭 倩(観光学・観光発展史)



私たちが日常的に使う「旅」、「旅行」、「観光」などの言葉、実はそれらの意味が異なっているのは知っていますか？「旅」と「観光」の言葉の違いの背後に、人間社会の歴史と時代の変化が隠されています。現在、私たちは豊かな余暇生活を過ごしていますが、昔の人々の日常生活にとって、「観光」というものは「高嶺の花」のような存在です。観光の発展は社会の発展の象徴的なものであると同時に、その反面、社会構造、経済環境、技術進歩によって影響・制限されています。本講義では、歴史事象と観光の関連性を紹介しつつ、観光活動の歴史的意義について学び、またコロナ終息後の観光について展望します。

■自律的地域観光 ■制度変革

地域観光の未来は？ — 自律的な地域観光振興に向けて —

教授 伊藤 昭男(地域観光論)



コロナ禍のパンデミックは、疾病を通じた生命のリスクという側面ばかりでなく、これまでの経済成長至上主義に伴う影響と考えられる気候変化などの地球環境破壊や生物多様性の危機などとあわせて人類の方向性に多大な影響を及ぼしています。これまでの人類の社会経済活動への再考が求められているのです。その時代状況の中で地域の観光振興もまたこれまでのあり方を反省し、未来の展望を見極めながらその新たな在り方の模索に迫られています。この講義では、こうしたエポックに遭遇して、「未来の地域観光振興」をどのように考えていけばよいかにについてみていこうと思います。内容は、概ね次のようになります。1) 世界観光からみたこれからの地域観光振興の展望、2) 「自律的な地域観光振興」・「人間性の質を向上させる観光」・「多様な空間から成る観光」の重要性、3) 自律的地域観光振興のための「地域思想」と「生活向上至上主義」への転換、4) 自律的地域観光振興のための制度変革の必要性。

■食料安全保障 ■国際貿易

私たちの食はどこから来たのだろうか？ 食料安全保障について考える



准教授 澤内 大輔(農産物貿易)

この講義では「私たちの食はどこから来たのか」をテーマに、いくつかの問いに対する答えを探索してみます。日本の食料自給率は長らく40%を下回って推移しています。このことは、私たちの食の多くが海外に由来していることを示しています。それでは、どの国がどれだけ私たちの食を支えているのでしょうか？その国の食料生産はどのような状況なのでしょう？今後、私たちが安定して食料を確保するうえでどんな課題があるのでしょうか？北海道は食料の安定供給にどのような貢献ができるのでしょうか？こういった点について、いまいちど言葉の定義を確認するところから始め、関連するデータを参照して、一緒に考えてみましょう。

■SDGs ■観光ビジネス

北海道の港には どんなクルーズ船が寄港しているの？



准教授 千葉 里美(観光社会学・観光ビジネス)

周りを海に囲まれている北海道への観光は、飛行機を利用する人が圧倒的に多いですが、近年はレジャー目的の船旅「クルーズ船」を利用して北海道に入ってくる観光客も増加しています。どんな船で、どんな行程で、北海道のどこに寄港しているのでしょうか？また寄港地では、どんなふうに観光客をお迎えし、観光客はどんなふうに過ごしているのでしょうか？

本講義では、まだまだ知られていない北海道のクルーズビジネスやサービスの現状について、観光客と地域の両方の立場から考えていきたいと思います。

■地域振興 ■観光産業

北海道観光は三流か？



教授 伊藤 寛幸(アグリツーリズム・地域計画)

「自然一流、施設二流、料理三流、サービス四流、意識五流」北海道観光を揶揄して囁かれてきた言葉です。しかし、皆さん！北海道の観光は、本当に、自然一流、施設二流、料理三流、サービス四流、意識五流でしょうか？私は決してそうは思いません。大方の北海道民は、地元北海道を低く評価する傾向にあるような気がします。2018年は北海道命名150年でした。150年足らずで他の都府県の追隨も許さないほどの地位を様々なジャンルで確立してきたではありませんか？特に北海道観光は、「鉄板一位」です。この地位を譲り渡すわけにいかないのです。もっと自信を持ちましょう！そして、北海道観光について、皆さんと改めて学び、先ずは、自然一流！サービス一流！意識一流！を実現しましょう！

■日ロ関係 ■地域研究 ■グローバル化

サハリン島から見えてくる 日ロ関係とは？



教授 竹野 学(日本経済史)

北海道最北端の宗谷岬から北に約40km隔てた先に位置するサハリン島。かつてこの島の半分は南樺太と称する日本の領土でした。つい少し前まではエネルギー開発が関心を呼び、それがやや落ち着いた現在では国境観光の関心も高まっています。この島は19世紀半ばから約100年の間、日本とロシア(ないしソ連)との関係で、幾度も焦点となった土地でした。日露戦争後のポーツマス条約によって、北緯50度線で島全体が南北に「分断」され、その後も両国間の戦乱や条約で島の南北の「合併」や「分断」が繰り返されました。そしてその度に島に居住する住民は移動を余儀なくされました。現在、日本から一番近いヨーロッパであり、北海道とも深い関わりを持っていたこの島の歴史を手がかりに、近代の日ロ関係を勉強してみましょう。

■物流 ■地域活性化

物流って何だろう？
皆さんの生活を支える物流

教授 相浦 宣徳(物流システム論)



「週刊誌の発売が本州の3日遅れ？」、「インスタント食品が関東の値段の1.5倍！」、「北海道産の野菜が本州の食卓から消える？」、そんな日が訪れるかもしれません。私たちの生活に欠かせない日用品や食料工業品は、全国各地で生産され北海道に輸送されています。また、北海道の主要産品である農産品は全国各地に輸送されています。いま、北海道と本州を結ぶ「物流」に関する難しい問題がおこっています。JR北海道の営業区間の見直し、青函トンネルを通る新幹線と貨物列車の問題（専門的には「青函共用走行問題」といいます）、トラック運転手さんの不足などです。本年度は、主にこれらの問題を紹介すると共に、それらが皆さんの生活に与える影響をお伝えし、一緒に解決策を考えたいと思います。

■自動運転 ■破壊的イノベーション

次世代自動車、完全自動運転で
何が変わるのか？

教授 村松 祐二(企業経営論・経営戦略論)



1880年代にヨーロッパに登場した自動車は、20世紀に入るとアメリカで大量生産・大量販売されるようになりました。そして自動車の普及が社会や文化に大きな影響を及ぼすモータリゼーションによって、社会自体も一変しました。今日では自動車メーカーの国際競争は激しさを増し、世界的な合従連携が進むとともに、巨大ICT系企業を中心に新規参入企業も増え、特に電動化や自動運転の開発競争が進みそうです。またこれまでなかった新たなモビリティ・ビジネスをうかがう動きも具体化しつつあります。講義では、自動車が置かれている現状を整理して、今後の変化を完全自動運転とモビリティ・ビジネス化の側面からお話しします。

■地域の課題 ■経営学

ピンチをチャンスに変えるには？

教授 橋元 理恵(管理会計)



みなさんは「ピンチをチャンスに変える」という言葉を聞いたことがあると思います。
みなさんの中にもこれまでにそのような経験をされた方もいらっしゃるかもしれません。
ビジネスの成功者は、どうにもならないと思えるピンチの状態からチャンスを見出して成功に導いている場合があります。ピンチの状態に陥った企業が、見事にピンチから脱して成功した事例を取り上げ、ビジネスにおけるピンチをチャンスに変える方法をともに考えたいと思います。

■経済のグローバル化 ■企業の国際取引 ■国際税務

税は国境を越えるか？

教授 中西 良之(財務会計)



経済のグローバル化によって、多くの企業が海外に進出し、富裕層が海外移住するなど国境を越えた様々な税の問題が発生しています。近年では、「パナマ文書」がマスコミ報道され、タックスヘイブンと言われる「租税回避地」を利用した租税回避が大きく注目されました。経済のグローバル化と税とのかわりについて、所得格差などの問題を通して、考えてみたいと思います。

■キャリア ■投資

種をまけばすべて実る？
未来を実現する投資とは？

准教授 松原 英二(証券論)



「まかない種は実らない」ということわざがあります。努力することの大切さを言っているというのが一般的な理解ですが、では反対に「種さえまけばすべては実る」と言われたらどう考えますか？きっと「そうとは限らない」と反論されそうです。しかし、ここでいう「投資」とは、多かれ少なかれそのような性質をもつものです。ワクワクするような夢の実現には「投資」が必要で、夢が叶えばみんなが幸せになれる。一方で、夢が破れればそれまでの「投資」がムダになるかも知れません。そこで夢の実現のためのコスト(費用)と得られる果実との相関性やリスク(危険性)の見積りや管理が重要な課題となります。こういった投資の基本をともに学びます。

■ゲーム ■観光ゲーム ■新しいビジネスモデル

ゲームの力で観光やビジネスの
可能性を広げてみませんか？

教授 三田村 保(観光情報学・知能情報学)



ゲームは広く親しまれ、楽しみながら挑戦やストーリーを体験する手段として、世界中で多くの人々に利用されています。ゲームの持つエンターテインメントやコミュニケーションの要素を観光やビジネスに取り入れ、新しい展開を考えてみませんか？「観光ゲーム」や新しい「ビジネスモデル」を創造することで、地域の魅力を効果的に伝えてみませんか。講義では、ゲームの観光やビジネスへの具体的な適用例を紹介し、参加者はチームを組んでゲームのアイデア出しの最初のプロセスを体験します。新たな取り組みや発想を通じて、ゲームを通じた創造的な学びとイノベーションを共有し、未来の観光やビジネスに対する可能性を広げましょう。

■心理学 ■差別・排除

人はなぜ人を差別するのか？

准教授 玉井 航太(社会心理学)



世界のグローバル化によって、様々な人種、宗教、価値観が混在する多文化社会が身近なものとなっています。そのような中、異なったモノ、コトに対する差別、排除もまた私たちの身近に存在します。なぜ人は、自らと異なったものを差別し、排除するのでしょうか？差別や排除には、歴史の流れや社会構造が関わっていますが、それだけではなく、人の基本的心理として「異なり」を認識する機能や、「グループダイナミクス（集団の力学）」が働いています。心理学的な観点から差別や排除が起こる理由の一つの説明を考え、そこから私たちが他者とどう向かい合うべきかを考えます。

■哲学 ■社会的役割

言語は人間とその社会に何をもたらすか？

准教授 見附 陽介(哲学・倫理学)



人間の精神活動と社会活動はともに言語能力によって成立しています。例えば、ある動物を「犬」として認識することは、その対象を「犬」という概念を指し示す記号として捉えることで可能となりますが、この記号作用は言語能力によってもたらされるものです。ところで、この言語の記号作用は、同時に社会の仕組みとしても働いています。というのも社会における人間と人間の関係もまた、ある人を例えば「教師」として、「駅員」として、「通行人」として捉えることで成り立っているからです。そして実はここに一人ひとりの個人のアイデンティティの形成が深く関わる、ということに気づいたとき、そこから哲学的分析の面白さが始まります。

■英語 ■言語学

スペルが長い英単語は「短い」ことがある？

教授 原子 智樹(英語語形成論)



英語の単語を形態素、単語などの用語からもひも解き、いくつかのレベルから構成される英単語の形成論を解説します。例えば、(1)mailという単語に対して、(2)mailboxや(3)mailerのような単語がありますが、(1)から(2)(3)ができる場合に、両者は違う方法で造られます。こういった違いを理解すると、見慣れた英単語が新鮮に見えてきます。

■学校教育論 ■「教育」とは ■「学校」とは

「学校は勉強をするための場所」って、本当？

教授 山口 晴敬(教育学・教育社会学)



ところで、「学校」って何のためにあると思いますか？あなたは、何で学校に通っているのですか？勉強に部活動に友人との語らいに、学校生活を忙しく過ごしている皆さんは、「学校」についてじっくりと考えて来なかったかもしれません。実は「学校」は、とても重要な役割を担うことを期待されているのです。そして、それらを考えることが、市民（自立的個人）である皆さんにはとても重要なことです。その考える切り口は「教育社会学」です。「教育社会学」は「教育」というフィルターを通して「現実はどうなっているのか、どうしてそうなるのか」を考える学問です。さあ、一緒に「学校」を「教育」を考えてみませんか？

■カウンセリング ■葛藤解決 ■教師教育

上手にケンカできますか？

准教授 益子 洋人(教育心理学・教育相談論)



みなさまは、大切な人と、上手にケンカできますか？
実は、ほとんどの人は、ケンカすることが苦手です。上手なケンカの方法を知らないでケンカすると、相手との関係が悪化したり、不快になりやすくなったりします。したがって、上手にケンカする方法を学ぶことは、大切にしたい人とお互いに尊重し合える人間関係を築くために、とても大事なことです。でも、いたい、どうやって？ この講義では、おもにわたくしが北商大で行っている「上手なケンカ」の方法に関する内容を、高校生向けに修正してお話しします。

■労働経済 ■教育経済

労働経済学における人的資本論

教授 李 炯直(労働経済学・教育経済学)



労働経済学は、労働市場の動向や労働者の行動を分析する学問であります。微分・積分などの数学ツールは、これらの分析を支える基盤にとどまらず、統計分析や経済モデルの構築にも不可欠です。こうした労働経済学の様々な分野の中、人的資本論は、教育や訓練が労働者の生産性を向上させることを示し、経済成長における重要な要素とされています。より具体的に説明すると、回帰分析を用いて教育水準と賃金の関係を定量化することで、人的資本の価値を示すことができます。これにより、政策立案者は労働市場の改善策を科学的に検討することが可能となります。

■韓国 ■ポップカルチャー

日本における韓流とは何か？

教授 水野 俊平(韓国・朝鮮語学)



いま日本ではK-popや韓国ドラマが流行っており、これらは「韓流」と呼ばれています。でも、韓国ではK-popやドラマのことを「韓流」と呼びません。あくまで、日本をはじめとする周辺国での呼び名なのです。また、「韓流」という名称も20年ほど前から使われ始めたものです。それ以前にも「韓流」のような現象はありましたが、その内容(ジャンル)、ファンの年齢層、利用する媒体は現在とまったく異なっていました。日本における「韓流」の流れを追うことで、日本における韓国の大衆文化の流行の流れを考え、日本と韓国との文化的な関わりの変化を考えます。あわせて、日本人にとって「韓流」とは何なのか、その意味するところは何なのかを考えてみたいと思います。

■多文化共生 ■多民族国家

「地域研究」から見えてくるものとは？ —シンガポールを通して学ぶ—

講師 坂口 可奈(政治学・東南アジア地域研究)



シンガポールというと、マーライオン像を思い浮かべる人は多いと思います。では、マーライオンとは何でしょう？なぜマーライオン像が建てられたのでしょうか？シンガポールに野生のライオンは生息していないのに、なぜライオンの頭をモチーフにしているのでしょうか？これらの疑問について考えていくと、シンガポールをめぐる「歴史」と「世界」が見えてきます。このように目の前にある事柄から思考を広げていくことが「〇〇を通して学ぶ」ということです。

本講義では、シンガポールの観光地をもとに、現在と過去とのつながりや、ある場所と世界とのつながりについて考えていきます。「〇〇を通して学ぶ」を体験してみてください。

■台湾 ■アジア ■国際交流

日本の国境ってどんなところ？ —与那国島と台湾の関係—

准教授 舩田 佳弘(移行経済論・中国経済・進化経済学)



日本に住んでいるとあまり国境を意識することはありません。海外とは文字通り海で隔てられた外側であり、自国と他国の境界は自明であるように思われます。しかし、世界では陸地に国境を有する国が多くありますし、日本も海上で他の国と接しています。例えば、根室はロシアと隣接していますし、対馬(長崎県)は韓国と接しています。日本の西の端では与那国島(沖縄県)が対岸に見える台湾と近年様々な交流活動を行っています。北海道とは全く異なる自然・歴史・文化を有した与那国が身近な海外である台湾とどのような関係性を築いてきたのか、現地での体験談も交えて紹介します。

■ナショナリズム ■日中関係

中国の反日感情は改善されたのか？

教授 佐藤 千歳(現代中国社会研究)



新型コロナウイルスの影響で急減した観光交流は回復し、北海道内の観光地や繁華街で中国語の響きを聞かない日はありません。中国大陸から北海道への観光客は、10年前の年間わずか9万人から、今や66万人にまで「爆増」し、外国人観光客の4分の1を占めるに至りました。その一方、中国国内では、反日感情が現在も色濃く残っています。アメリカとの対立が深刻化しても、反米感情より反日感情が強いように見えます。なぜでしょうか？複雑な日中関係の背景について、中国国内の世論や歴史観をていねいに参照しながら考察します。そのうえで、隣の大国・中国との関わり方について、自分なりの視点を獲得することを目指します。

■中国 ■中国文化

中国の魅力は何でしょうか？

講師 劉 玕(中国語・中国文化・中国経済)



中国といえば、まずどんなものを思い出しますか？可愛いパンダ、おいしい中国料理、面白い三国志といったものでしょうか。歴史が長い巨大な中国には、まだまだたくさん面白い魅力があります。例えば、四川省にある「三星堆遺跡」と呼ばれる遺跡から、新たな遺物が複数発見されました。そのうち、黄金の仮面は世界から注目を集めています。また、現在、日本でも流行っているTikTok、家電量販店でよく見られるファーウェイなどの中国企業の製品も我々の暮らしに溶けこみ、生活に楽しさを加えています。本講義では、まず中国の魅力について考えます。続いて、中国の発展を、皆さんと一緒に考えていきます。

■中国 ■中国語

なぜ中国語を学ぶのか？

教授 蘇 林 (中国語・中国文化)



「中国語を勉強するなら北海商科大学へ」、「中国語が私の人生を替えた」、「中国に対するイメージを180度変えてみませんか」と、本学の卒業生が呼び掛けています。なぜなら、中国語を学んだ彼らは、「漢語橋」世界大学生中国語コンテストに出場して優勝したり、内閣府の青年訪中団に選抜されたり、中国国費留学生の資格を取得したりして、見識が広げられ、充実な大学生生活を送り、社会人になった今も活躍される舞台が広いからです。現在「近くて遠い国」になった日中両国ではありますが、日本財務省税関の統計によると、2023年度の累計貿易相手国ランキング1位中国、総額は42兆1801億円でした。本講義は、中国語の漢字構造および言語表現などを通して中国人行動意識、真実な中国および中国語学ぶ楽しさを教えます。

■語学 ■韓国語

韓国語ってどんな言葉？
—韓国語・異文化を学ぶ意義—

教授 李 鳳 (韓国語学)



「近くて遠い国」とかねてから言われてきたお隣の国、韓国。今では韓国料理をはじめとし、韓国ドラマ、K-POP、K-文学などの韓国文化が浸透しています。また、韓国企業の日本進出も増えていますが、LINEも韓国の企業であることを知っていますか。さらに、北海道に来る外国人観光客の中で韓国は上位を占めており、韓国語での言語対応や接客に関する知識も必要とされています。本講義では、主に韓国語の概要と、韓国文化について簡単に説明するとともに、韓国人に対する「なぜ」「どうして」に答え、大学で韓国語・異文化を学ぶ意義について共に考えたいと思います。

■アメリカ文化 ■教育制度

日本の学校とアメリカの学校の違いは？

教授 ニールセン ブライアン (異文化交流)



アメリカの高校生の通学方法は？昼食に何を食べているの？教室の掃除はするの？休暇はどのくらいあるの？学校ではどのような行事があるの？学習活動はどんなことをしているの？どのようにして大学に入るの？男子、女子に最も人気のある学校でのスポーツは？日本とアメリカの学校の類似点と相違点を考えてみましょう。

■社会制度 ■結婚観 ■古典文化

平安時代、どのような女性がモテた？
—源氏物語の結婚観—

准教授 保坂 智 (日本文学・中古文学)



多くの教科書に採用されている桐壺巻や若紫巻以外にも、『源氏物語』には楽しい巻が数多くあります。たとえば、17歳の光源氏を含む4人の男性貴族が理想の女性像についてあれこれ体験談を交えて語り合う場面は、帚木巻にあり「雨夜の品定め」と言われています。ほぼ同世代の皆さんにとって1000年前の17歳男子に人気のあった女性像などはとても興味深い話題と思われます。当時の貴族階級の恋愛観や結婚観を知り、なぜそのような価値観が生まれるのかを考えると、昔の単なる「モテ」要素を知るだけでなく現在の結婚観や社会制度を見直し自分で思考するきっかけになるのではないのでしょうか。



北海商科大学は、生徒さん(と先生方も!)の知的好奇心をくすぐる多彩な出前講義を実施しています。刺激的で新たな発見満載の講義を体験してください。
お申込の参考となるデータをご用意しましたので、ぜひご活用ください。

■出前講義を実施した学校数

道内30校

実施学校名(一部抜粋)

北海道利尻高等学校、北海道鶴川高等学校、北海道知内高等学校、北海道滝川高等学校、北見藤高等学校、北海道岩見沢東高等学校、藤女子高等学校、北星学園大学附属高等学校、北海道藻岩高等学校(順不同)

■おすすめ講義 ベスト3

No1

商学を学ぼう

ゲームの力で観光やビジネスの可能性を広げてみませんか?

教授 三田村 保

ゲームを通じて観光やビジネスを活性化させる具体的な事例を学び、アイデア創出のプロセスを体験します。

No2

社会を考えよう

人はなぜ人を差別するのか?

准教授 玉井 航太

人はなぜ異なるものを排除するのか? 歴史や社会構造だけでなく、心理学的視点からその理由を探ります。

No3

観光を学ぼう

「食」が観光ブランド化を強くするのか?

准教授 深澤 史樹

観光地の魅力として、「食」文化がどのように観光ブランドを形成するかを探求し、その役割を考察します。

■受講者の声



リサーチクエストのたて方など、日ごろ研究をされている先生方の視点が生徒には響いたと思います。

(高校教師 A 先生)



実際の事例を交えた説明で、生徒たちが理論だけでなく実践的な知識も身につけることができました。

(高校教師 B 先生)



地域研究の講義でシンガポールについて学び、多文化共生の大切さを実感しました。将来の進路を考える上でとても参考になりました。

(高校生 C さん)



普段接している“(高校の)先生”ではなく、専門家としてのお話に思わず惹き込まれてしまいました。

(高校生 D さん)

「ミステリー出前講義」のお申込みも歓迎します

講義内容をご指定いただかない場合は、今の旬のテーマや注目のトピックスに基づいて、本学が厳選した講師を派遣します。第一希望欄に「講義の指定なし」とお書きください。

進路決定の助けとなる「商学とは何か」「観光学とは何か」といった広いテーマの出前講義にも対応しています。

出前講義FAX送信状

<送信先>

北海商科大学 入試・広報センター

FAX 011-824-0801 TEL 011-876-0046

E-mail nyushi2@hokkai.ac.jp

申込日 年 月 日

修学旅行連動型 出前講義申込書

高校名	高等学校		
担当者氏名	TEL ()	—	
	FAX ()	—	
E-mail			
希望日時	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分		
	日時の調整は可能ですか? 可能 ・ 不可能		
実施形態	本学教員 (1名希望 ・ 複数名希望) ・ 他大学等と合同		
受講人数	合計 名 (対象学年 : 1年 ・ 2年 ・ 3年 ・ 保護者等)		
	未定の場合、いつ頃確定できますか? 月 日頃		
修学旅行先または希望テーマ			
備考			

出前講義申込書

高校名	高等学校		
担当者氏名	TEL ()	—	
	FAX ()	—	
E-mail			
希望日時	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分		
	日時の調整は可能ですか? 可能 ・ 不可能		
実施形態	本学教員 (1名希望 ・ 複数名希望) ・ 他大学等と合同		
受講人数	合計 名 (対象学年 : 1年 ・ 2年 ・ 3年 ・ 保護者等)		
	未定の場合、いつ頃確定できますか? 月 日頃		
第1希望	テ — マ :		
	教 員 名 :		
第2希望	テ — マ :		
	教 員 名 :		
第3希望	テ — マ :		
	教 員 名 :		
備考			

※授業の都合で対応できない場合がありますので、第1希望から第3希望まで記入をお願いします。

複数教員の派遣を希望する場合はこの用紙をコピーしてください。

なお、出前講義の実施にあたって謝金・交通費は不要です。

学校法人 北海学園
北海商科大学
商学部〔商学科・観光産業学科〕



地下鉄東豊線
「学園前」駅 直結